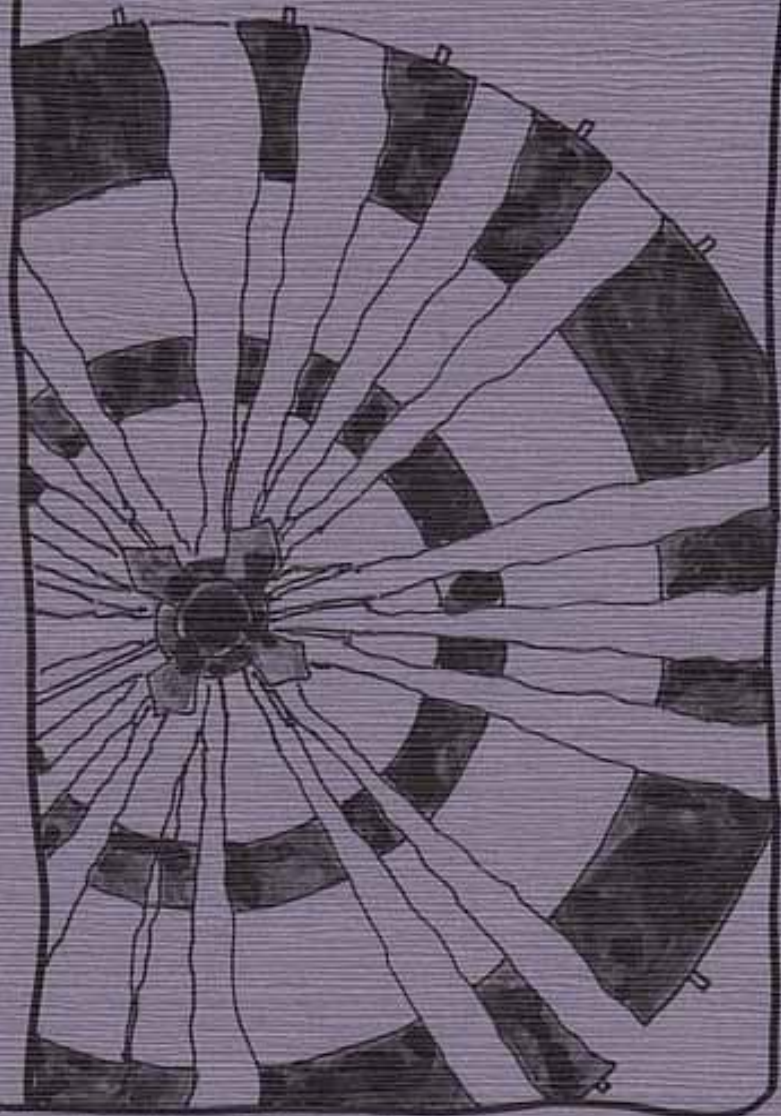


# やぶれ傘



一一四号

二〇二〇年六月

給油所がとほくに見ゆる麦の秋 根橋宏次

青梅の転がつてゐていま更地 きくちきみえ

補聴器に風の音くる茄子の花 大島英昭

店番のどこか拭ひてゐる日水 青谷小枝

杉落葉踏み産土を詣でけり 廣瀬雅男

竹垣に絡む鉄線咲きにけり 瀬島酒望

空青き日には蜥蜴がゐるタイル 丑久保 勲

朝の雨うすく紅刷く青りんご 藤井美晴

選句して終へる誕生日や薄暑 小山よる

ビル壁に木の影動く薄暑かな 渡邊孝彦

金婚を過ぎジャスマミンの香る窓 安藤久美子

初蝶を畑の境に見失ふ 秋山信行

墓にきて驚くばかり土筆出て 白石正躬

石楠花は百の石段降りてより 天野美登里

芝川の岸の芥子菜たと摘み 有賀昌子

## 抄 集 句 傘 大 崎 紀 夫 選

老人がベンチに独り春の昼 松村光典

日の暮れていよいよ白き牡丹かな 箕田健夫

稜線の真白きままに夏に入る 武藤節子

笹鳴を聞く図書館の駐車場 山本久枝

風わたる向かう岸まで蘆の角 湯本正友

ぼうたんの花びら軽く花重く 泉 一九

散りぎはの桜眺めに小橋まで 奥田温子

雨上がり春菊の芽の出揃つて 亀岡睦子

クロワッサンの層払ひをる花曇 倉澤節子

果燕の数を数へて家を出る 坂本和穂

笙の音のひとときは高き薪能 篠崎志津子

喉にふと不安のありて半夏生 中島和子

庭石に石の色あり春の雨 貫井照子

末黒野の向う筑波山の空あをし 野口希代志

庭に影落としてつるぶしじみ蝶 萩原溪人

青 桐

大崎紀夫

春昼の坂を歩いてくぐる鳩  
さつきから雲ゆくばかり鳥の巢  
川筋の空に浮き雲鳥帰る  
舳倉島まで来て蚋に刺されけり  
犬がつと立ちあがり見るしやぼんだま

昼眠る漁師に椎のほひくる  
空が乾いて鳴いてゐる夏の鳶  
青桐がかぶさつてゐるトタン屋根  
烏瓜咲いて下つてくる歩荷  
昼顔が柵に自動車教習所  
炎昼のこの鉄棒にぶらさがり  
ひまはりの畑見えてきて橋の上

麦の秋

根橋宏次

海を見にあらせいとうの畑まで  
菓子司金時堂につばめ来る  
カッターの刃を折り春を惜しみけり  
八十八夜細引き縄を畑に張り  
葉桜へ二階の座敷開け放ち  
筍の頭が一寸見えてをり  
ささ濁る水にくちぼそゐる薄暑  
給油所がとほくに見ゆる麦の秋  
踏み石は躡り口まで紫蘭咲く  
畑から新玉葱をさげて来る

青梅

きくちきみえ

なんとまあ開ききつたるチューリップ  
桜葉降る学校の昼休み  
墓石の水すぐ乾き犬ふぐり  
辣蕪の匂ひのしたるゴミ置き場  
のぞくたび目高の空を曇らせて  
空豆の莢より薄い緑かな  
青梅の転がつてゐていま更地  
三叉路のひとつは海へ花海桐  
ちよつとだけコブの佃煮豆ごはん  
水やうかん角より匙を滑らせて

茄子の花

大島英昭

自動車がひかつて過ぎてゆく日永  
バス停に十人がほど紫木蓮  
里ざくらの火の見櫓が見えはじめ  
草おぼろ犬の散歩と出つくはす  
事務室のななめ右前藤が咲く  
花くるみ落ちて間もなき色をして  
駐車場隅に自販機銭あふひ  
紫が濃い目じやがたら薯の花  
補聴器に風の音くる茄子の花  
麦の秋循環バスが出るところ

日永

青谷小枝

むわむわと春の風来る物干し台  
店番のどこか拭ひてゐる日永  
花木通揺れてむらさき濃紫  
病室の窓の桜を見て帰る  
テーブルにコーヒー冷めて花散つて  
捨て鉢の穴より草の芽がひよると  
戻り寒耳の冷たき猫抱けば  
大南風市場の口の定食屋  
アマリリストングで分けるスパゲッティ  
夏来る瓶のマリモの水換へて

杉落葉

廣瀬雅男

ぼこぼこの畑の道の犬ふぐり  
県境の山を近くに林檎咲く  
ポケットに手を突つこんで辛夷見る  
バス待てば辛夷の花の散り来る  
春昼の街をゆるゆる歩きけり  
つと揺れて雨粒払ふ八重桜  
園児らは昼寝の時間チューリップ  
囀りのひとかたまりに移りけり  
杉落葉踏み産土を詣でけり  
篠の子や日差し届かぬ勝手口

鉄線

瀬島酒望

建材屋裏に砂山花薺  
あたたかし書斎の書架に砂時計  
対岸に冷蔵倉庫鳥曇  
陽炎へる米軍基地の滑走路  
露味噌や塩乗せて酌む枺の酒  
竹垣に絡む鉄線咲きにけり  
ご本尊見えるほど開け春障子  
柏餅買ふ左折してすぐの店  
網越しに仁王の睨む麦の秋  
青時雨猫の骨壺決めにけり

蜥  
蜴

丑久保勲

桜散る静かに動くパトカーに  
鎌入れて根つこもろとも草を摘み  
春泥へバツクで入るミキサ―車  
夏近しきのふより草すこし伸び  
トーストとジャムとコーヒーけさ立夏  
柳絮飛ぶサントペテルブルグ晴れ  
保育園の藤棚の下がらんどろ  
砂糖振り匙でイチゴを潰しけり  
空青き日には蜥蜴がゐるタイル  
船一便やり過ぎしけりアナゴ井

青りんご

藤井美晴

虎杖がカポンと折れて昼を過ぐ  
祠の左いちめんの杉菜原  
干されたるシーツの向う幣辛夷  
テラスから視界の端に山法師  
初夏はつなつの日が百合ゆりのの樹きを越えてゆく  
白雲の切れ目にしばし夏の星  
山蟻がひた走り行く石畳  
読みかけて青葉の陰へ椅子を寄す  
庭履きの下駄の鼻緒に黄金虫  
朝の雨うすく紅刷く青りんご

薄 暑

小山よる

拭き取りしゴミ覗き見る日永かな  
春ならひ母が痴呆になる夢を  
テーブルの隅つこにあるしらす干し  
春灯ほんの一口残るパン  
夏近し切れ目わからぬセロテープ  
桜まじへつこんである靴の先  
五つ目の卵は割れて夏に入る  
夏立ちぬ隣家はやたら掃除機を  
選句して終へる誕生日や薄暑  
夏の夕お茶は思ひの外熱く

ヒヤシンス

渡邊孝彦

木五倍子咲く後ろの小屋に猫車  
玄関にかをる廊下のヒヤシンス  
ブランコを囲む柵なら腰かけて  
陸橋の先は病院つつじ咲く  
絹莢の花に薄日が差しきたる  
みちのべのまづ目に留まる罌粟の花  
ガマズミの虫食ひの葉に初夏の風  
ビル壁に木の影動く薄暑かな  
姫女苑ガードレールの内外に  
てんとむし払ひ落した筈が手に

茄子

安藤久美子

金婚を過ぎジャスマミンの香る窓  
半身づつ喰ふ塩焼の桜鯛  
大皿に羽根つき餃子春夕焼  
おむすびを結ぶ八十八夜かな  
物置の周りは著莪の花だらけ  
四十雀矢庭に樹より日面へ  
夏風にさらりと揺るるドレス買ふ  
汗ばみて生きてゐるとは思ひけり  
空映るかに艶々と茄子の五個  
抜かずおく烏柄杓がここに

土筆

白石正躬

畑打ちの己が影をも打ち返す  
墓にきて驚くばかり土筆出て  
青麦をゆすりて風が吹き抜けて  
張り紙を時々めくる春の風  
木の芽径ところどころに赤テープ  
水楯の幹の縦じま木の芽雨  
ごみの影が川底にゆれ水ぬるむ  
月おぼろ時間どほりに電車きて  
渡船客を目で数へゐる春日中  
飯軽く済ませ竹の子掘に出る



初蝶

秋山信行

砂利山にぺんぺん草の長けにけり  
芋植ゑる雨止むころを見計らひ  
病棟に妻のこし来る朧の夜  
たたなはる山をとほくに青き踏む  
ふりさうな空をおちくる夕ひばり  
水切りをまたひとつ打つ春の湖  
苗床のビニールくもりゐる朝  
初蝶を畑の境に見失ふ  
水草の吹かれるままに池の端  
巻きさうでなかなか巻かぬ春キャベツ

石楠花

天野美登里

海胆剥きのいつしか暮るる明り窓  
水浴びをしてゐる夏の石叩  
「おはやう」は川向うから夏燕  
木洩れ日に紛れてゐたる金魚かな  
溜池の土手の蕨を摘みにけり  
皿に敷く虎杖の葉や胡麻豆腐  
昨夜の雨続く流れに菱の花  
郵便の届く時間や栗の花  
浜木綿や教会を訪ふ旅にゐる  
石楠花は百の石段降りてより

芥子菜

有賀昌子

藤九郎の求愛ダンス 四月馬鹿  
芝川の岸の芥子菜 とうくろうあほうどり 摘み  
連れ添うて五十余年や藤の花  
琴の音がポロンと聞こゆ花の夜  
すみれ咲くその夜おもちやのコンサート  
金縷梅や庭掃く僧へ遠会釈  
スーパームーン桜妖しく浮きあがる  
ぴかぴかのお賓頭盧さま夏兆す  
白牡丹蕊より小虫出でにけり  
息子より小箱で届くさくらんぼ

土竜塚

松村光典

沈丁花蕾をひとつひらきけり  
枝々の先の芽吹きの確認かなる  
もつこりと春の大きな土竜塚  
百年の樹齡の銀杏萌ゆるかな  
老人がベンチに独り春の昼  
春の苑ホルンの調べ届きくる  
たんぽぽのそばに一枚鳩の羽  
妻と来て一句も詠めぬ夏の苑  
ペランダにストックの花匂ひある  
うつすらと覗く青空日傘行く

## ◇7月・8月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
7月	1日(水)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	3日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	3日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山 信行
	7日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	7日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン1	大島 英昭
	18日(土)	PM2:00	セニヨリータ句会	WEP俳句教室	藤井 美晴
	25日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬 雅男
	25日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
8月	3日(月)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン8	丑久保 勲
	4日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	4日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島 英昭
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山 信行
	15日(土)	PM2:00	セニヨリータ句会	WEP俳句教室	藤井 美晴
	16日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	さいたま市・見沼	丑久保 勲
	22日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬 雅男
	22日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

[注] ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

スタート時間は今後6時に変更します。

8月16日(日)の吟行。集合は10時。

集合場所はJR京浜東北線北浦和駅・改札口。

吟行地は見沼西縁の葉桜並木。

句会場は浦和コミセン第10集会室。

◎連絡先    秋山 信行    ☎048-874-0555    藤井 美晴    ☎0422-55-2733  
                  大島 英昭    ☎048-592-5041    WEP編集室    ☎03-5368-1870  
                  廣瀬 雅男    ☎048-443-7522    丑久保 勲    ☎048-853-3856